

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:盛光 秀之 所属:川崎市立川中島小学校 記録日:平成28年2月18日

○キーワード

通常学級に在籍する学習に困難さを持つ児童に対して iPad を使うことにより学習機会を保障することができるか
「読み・書きの困難 記憶の困難」「教科学習」「学習機会の保障 読み・書きの支援 計算力の向上」

【対象児の情報】

- ・学年 3学年
- ・障害名 診断は受けていないが、読み書きと記憶の困難さがある。
- ・障害と困難の内容
 - *書くことに困難さをもっているため、ノートをとることが難しい。
 - *読むことにも困難さがある、特に画数の多い漢字はほとんど記憶できていない。
 - *覚えたことが中々定着していかない。

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - 苦手さを補い、学びきる方法が持てることで、学習機会を保障すること
 - 学びきれ見通しの中で繰り返すことによって学力の定着を図っていくこと
- ・実施期間
2015年6月～2016年2月
- ・実施者
盛光秀之
- ・実施者と対象児の関係
在籍児童が通う小学校の教務主任
月に1～3時間の校内取り出し指導を実施

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

●保護者からの聞き取り●

- ・漢字を書くことにとっても苦勞していて横棒の数が足らなかつたり、全く違う形を練習していたりすることが気になるとのこと。
- ・音読をさせると棒読みで、感情の入った読み方はできない。また絵本など簡単なものも読むことが難しいようだ。

●担任からの聞き取り●

- ・文字が整わないので、ノートの字を読み返しても読めないことがある。
- ・漢字の画数が多いもの、「書」などは線が混じってしまい本人からも「先生よくわからなくなる」と訴えがあった。
- ・お手本とは違う漢字を練習してしまう。
- ・忘れっぽく、伝達したことも少し時間がたつと忘れてしまう。

●対象児との会話の中で●

- ・「学習の中で一番困ることは何か」とい尋ねたところ「漢字」と答えていた。
- ・会話すると、こちらの意図が通じないことが時々ある。
- ・今好きなことはミニ四駆ということだったので、持っている種類をノートに書いてもらおうと片仮名がうまく想起できていない様子だった。

●対象児の様子を観察●

- ・家庭に訪問すると落ち着かない様子で母親の注意にも耳を貸さない行動をしていた。
- ・授業を観察すると、指導者に目を向けることが少なかった。ただ、視覚に訴える教材が出ると声を出して反応していた。指導者から学習の指示があったとき、どうすればよいかわからないが周りを見て確認してから作業に取り掛かっていた。
- ・音読すると、どこで区切るかがわからなくなりまた目の動かし方が少なく止まっているように見える。

対象児の困難さの特徴

○読むことについて

保護者からの聞き取りでは、音読を聞くと抑揚がなく感情表現がないことと音読で言い間違えが多いことが気になると話していた。実際の指導で観察すると、平易な平仮名の文を読ませると、文節がよくわからず、文字を音に変えることはできているが、全く内容を理解することができていなかった。

○話すことについて

保護者からの聞き取りでは、今日の出来事を話すときに何を伝えたいかがわからず時系列もバラバラであると言っていた。その点に関して実際指導してみると、しりとり遊びで出てくる言葉や自分の苦手なことと得意なことを話す言葉から語彙の少なさを感じた。また、記憶の弱さもあるようで、今日はどんな学習をしたのか。朝は何を食べてきたのかなども曖昧な表現をしていた。

○その他

運動会の練習では準備運動で同じ動きをすることが難しいようで、粗大運動の模倣にも課題があり表現活動もなかなか友達の動きについていけないようだ。


○対象児の強み

ただ優れている点もある。対象児童は性格や人柄がよく、やれることはしっかり取り組むことができるので、わかる・できるの思いを実感することができれば継続して学習を進めることができるのではないかと予想している。また、計算には自信をもっているため、できることをしっかり伸ばしていきたい。



・活動の具体的内容

①読み・書き・記憶に関わる支援


使用したアプリ	支援場面と方法	対象児童の変化
 <p>ボイスオブデイジー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の宿題 ・夏休み期間の読みの練習 <p>使用方法については保護者を含めて2回レクチャーした。読みの速度や色などが本人が設定できるように指導した。</p>	<p>同時読みより、追い読みすることを本人が好んだのでかなり遅い速度で読み上げている。ただ、文節の区切りなどを記憶して3年生国語の題材「きつつきの商売」は夏休みの練習もあり、流暢に読むことができるようになっていた。</p> <p>嫌がっていた音読の宿題に対しても拒否感情が弱くなっている。</p>
 <p>例解学習国語辞典</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題で使用 ・取り出し指導で使用 <p>プリントでわからない語句が出た場合に使用できるように、手書きでの使い方をレクチャーしたが使用頻度は低い。</p>	<p>教科書の中で意味が不明なものなどを自分から調べることができるようになった。</p> <p>また、付属の漢字検定の読み課題を利用して、長期休みに再学習する機会として設定した。これに関しては、達成率がはっきり表示されるので、学習が進むにつれて意欲があがった。</p>
 <p>小2漢字ドリル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習 ・取り出し指導で進捗を確認 <p>始点と終点をはっきりすることや、記憶の弱さがある対象児童でも最後の5文字目が記憶に粘って書くことができるので、このアプリを選んだ。</p>	<p>やりきることのできる課題だったことが本人は嬉しかったようで、継続的に取り組んだ。3年生だが、低学年の漢字を再学習することで複雑な漢字に対応する力が身につけてきている。</p>
 <p>常用漢字筆順辞典</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題で使用 <p>字形を整えることが苦手なので、筆順漢字で漢字を選んだ後に、部分を隠しながら書くように指導した。</p>	<p>画数の多い漢字に関しては、形はとらえているが細部を見落としがちだったので、お手本の一部を隠し情報を制限する方法を伝えたところ、画数の多い漢字も枠に収まり、見落としも減っている。</p>

 <p>神経衰弱できるもんおすし やさん</p>	<p>・短期記憶のトレーニングとして使用 レベルが選べるので、少ない枚数から使用するよう指導した。</p>	<p>記憶のトレーニング用に様々なアプリを試したが、本人が一番気に入ったのがこれだった。難易度を選べることや、データが残ることが楽しいようで妹と一緒にたのしんでいると母親から聞いている。</p>
---	---	---

②算数に関わる支援

使用したアプリ	支援場面と方法	対象児童の変化
 <p>あんざんマンと算ストーン: 小学生算数</p>	<p>・家庭学習 ・取り出し指導で進捗を確認 計算(掛け算)は自信をもっていたので、力を伸ばしたいと思いつくか試したところ、妖怪をゲットできることが好子となりそうだったのでこのアプリを使用することとした。</p>	<p>6月の取り出し指導では、足し算と引き算に関しては間違えが多く、速度も遅かったが毎日の練習で間違えが少なくなってきた。得意としていた掛け算は自信が深まったようで、計算のレベルを「おに」という一番難解なものを自分で選んで実施していた。 このアプリは、お金を貯めて武器を購入したり、倒した妖怪を集めたりすることができる。対象児童は新しい妖怪が出ると必ずチェックしていたので、その中で妖怪の解説を読んでいた、たどたどしい読みだったが本人が読みたいと感じるものであることは重要だと思ひ。取り出し指導と一緒に読んだ。</p>
 <p>小3算数チャレンジ 楽しく学べる算数シリーズ</p>	<p>・家庭学習で使用 このアプリは動画で解説してくれるので再学習や予習に向いていると思っ使用を進めた。</p>	<p>家庭での使用頻度は低かったので、授業の中で理解できていなかった単元の動画を見ながら再学習を実施した。動画での説明は理解しやすいので、理解が深まっている様子だった。</p>

③環境調整に関わる支援

使用したアプリ・取り組み	支援場面と方法	対象児童の変化
 <p>メール</p>	<p>いつでも相談できる窓口として使用した</p>	<p>保護者とは基本的に面談で情報交換をしたが、機器の使い方について保護者や対象児童が不安感や相談がある場合に対しての窓口として使用した。プッシュ通知などがあると心配なようで、メールで相談を受け、設定で通知をオフにしたことがある。</p>



啓発授業の実施

・学級活動を1時間実施

目標は「誰もが支援を受けられることを知り、今後困ったら相談することができる」とした。授業実施後、本人はもちろん他の子どもたちも困ったらすぐに担任に相談することが増えている。

・対象児の事後の変化

①読み書き記憶に関わる支援をすることによって

- * 音声支援のある事前学習を行うことで教科書の内容が理解でき、授業に参加できるようになっている。
- * 見通しをもちやすい漢字学習とわからない語句を調べる手だてができたことで今までなかなか自分から取り組まなかった漢字の学習に対して前向きに取り組むようになった。

②算数に関わる支援をすることによって

- * 間違いにその場で気づいて修正しながら反復練習できたので校内で実施している計算テストでは高得点を取り、自信を確かなものにした。

③環境調整に関わる支援をすることによって

- * 誰もが困ったら支援を受けることができることを理解できたので対象児も堂々と教室でiPadを使用するようになった。
- * 保護者の不安感を解消したことによって三者の意思疎通が深まった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ①学習に対して前向きに取り組むようになった。(学習機会の保障)
- ②自分のできることが増え、自主的に学習する姿が増えている。(得意を伸ばす)
- ③周囲の理解が深まり、対象児童を支えてくれている。(環境調整)

・エビデンス(具体的数値など)

○本人への聞き取り

Qこの1年で得意になった、好きになったことはありますか？

→算数ができるようになったと思う。

Q国語はどうか？

→書くことはできるようになってきているけど、読むことが難しい。

Q算数や書くことができるようになったのはどうしてですか？

→暗算マンや漢字練習アプリでたくさん練習したからだと思う。

○エビデンスとなる数値の測定

書籍名:特異的発達障害診断・治療のためのガイドライン 診断と治療社 を使用して読みと算数の数値を測定した。

単語速読検査・有意味語・無意味語の結果

有意味語	音読時間	読み飛ばし	読み誤り	自己修正
6月の結果	39.89秒	0	2	2
2月の結果	32.52秒	0	2	0
3学年男子平均	24.8秒	数値なし	0.2	数値なし

無意味語	音読時間	読み飛ばし	読み誤り	自己修正
6月の結果	80秒	0	7	2
2月の結果	72秒	0	5	0
3学年男子平均	49秒	数値なし	1.5	数値なし

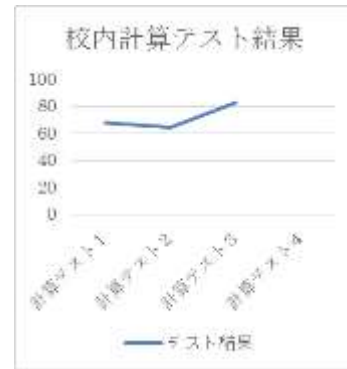
秒数	数的事実の知識				
	1桁+1桁	1桁+1桁 繰り上がり	1桁-1桁	九九式と答え	九九答えのみ
6月	25.79	42.5	59.56	43.43	40.36
2月	19.35	28.31	46.31	32.3	26.3
学年標準	11	15	15	20	21

*正答率は6月・2月ともにほぼ100パーセント

読みの速度改善と計算速度の改善が確認できたが、まだ学年標準までは到達していない。また、ここには記載していないが算数思考課題検査の結果は変化がなかった。

○校内計算テストの結果

本校では、漢字と計算のチャレンジテストとして年に4回実施している。80点以上が合格となっているが、1回目と2回目はケアレスミスのためもう少しとなっていたが、12月に実施されたテストでは80点を超えて、本人も自信を深めていた。



・その他エピソード(画像などを含めて)

○継続して学習を進めることができるように

以前は学習に対して消極的な態度だったが、やりきることのできる課題を通じて継続して学習ができるようになった。



○自発的な行動が増えている

取り出し指導の中で、「今日は何やるの?」から「今日は〇〇をやりたい」と要求するようになってきている。今自分が困っていることが理解でき、次の行動につなげることができていることは大きな成果だと考えられる。



気になったら、「確かこんな字だよ」とすぐに自分から調べていた。



音の支援を受けながら「そういうことか」とつぶやいていた。



周囲の理解が進み、教室内でも必要があれば iPad 使用している。

・今後に向けて

iPad を使うことで学習機会の保障はされているが、読みと記憶の困難さが強く出ているため学習全般で遅れがちになっている。ただ、算数は計算が早くなりじっくり考える時間があるので B 評価をとることができている。

今後は、今回の取り組みを個別の指導計画に記載して支援を継続していけるようにするとともに、本児童にとって有効となった支援、具体的には、読みに関しては読み上げアプリの活用でインプットを支えること、ノートテイクに関してはカメラ機能の拡大と漢字の想起を助けるアプリを使用すること、語彙に関しては辞書アプリで確認の方法を持つことなどが当然のように校内で支援を受けられるような体制を作っていく必要があると考えている。あと現在の状況では、授業についていくことが難しくなっているので担任と相談しながら学習量についても調節していく必要があると考えている。